

岩 菅 山 山 行 記 録



リフトから猿を撮る

ノッキリ

岩菅山山頂

目的地	岩菅山	期 日	平成23年7月13日(水)：曇り時々晴れ
山行人	笠原正雄・澄子	特 記	先月行き損ねた山。周回コースで歩く。

地 点 名	時 刻	記 事
与 板 発	5:20 発	高速利用。信州中野 IC を降りてから「すき家」で朝食。
高 天 原	7:50 着	リフト始発時刻まで1時間あるので、発着ゴンドラリフト乗り場に行ってみた。こちら始発前だ。小学生の団体が乗車準備中だった。
一 ノ 瀬	8:30 発	高天原に戻り、まだ時間があることから、下山側に近いダイヤモンドグレンデ駐車場に配車して歩き出す。
高天原夏リフト	8:50~9:02	終点駅付近には野生の猿が沢山歩いていた。登って高山植物園の一角を通る。テガタチドリ・ニッコウキスゲ・グンナイフウロ・アヤマ他。
三好達治碑脇	9:12	岩菅山・赤石山方面の道標に従い、木道を下る。ぬかるみ道からスキー場管理用道路を経てグレンデ登りとなる。
岩菅山登山口	9:40	寺子屋コースグレンデ終点に登山口標柱があり、そこから濡れた山道となる。
寺子屋山三角点	9:48	軽い上り下りを進む。幾分道の状況が良くなって来るが、虫がややうるさい。時折雲が切れて日差しが出て来る。
金山沢の頭	10:00	赤石山・大沼池分岐。山頂 3.4km の標柱。ここを過ぎてすぐに右手の樹林が切れて展望が利く。前方に山頂方向が見えている。時折風を受けて涼しい。総勢約 100 人の静岡県からの高校生がグループに分かれて登っている。50 年続く伝統の登山行事だそう。追越すに容易でなかった。登下降を繰り返す。
ノ ッ キ リ	11:00	今度は小中学生も加わって混雑している。
岩 菅 山 山 頂	11:30	途中から岩場混じりの急登を上がり、広い山頂に着く。すでに登頂の高校生先頭グループが居た。曇りで遠望は無い。続々と上がって来て、大賑わいとなる。
下 山 へ	12:50	先頭グループの高校生も下り始めている。
ノ ッ キ リ	12:50	右折してアライタ沢方向へ降り、一ノ瀬に向かう。こちらのコースは上げ下ろし無く下っている。
アライタ沢の橋	pm1:40	緑色凝灰岩の河床。脇に「荒板沢」の木札があった。水路に沿う道を進む。
ヒジリ平の上 小三郎小屋跡	2:00	標柱脇に山岳ガイドが立っていた。直進すれば東館山スキー場グレンデに出る。そのほうが時間が掛かると聞き、右折降下して車道に向かう。彼は高校生が直進しないようにと立っていたのだ。
車道に降りる	2:10	先頭グループの高校生が数人追越して行き、ここで点呼をとっていた。
一 ノ 瀬	2:35	駐車地点に戻り歩行終了。日差しは暑い、影に入れば涼しい。
湯 田 中 温 泉		アネックス湯楽館泊。部屋は値段相当である。風呂は本館を利用出来、広く、またレトロで素晴らしい。そして夕食は値段にしてはすこぶる豪華であった。翌朝早くに宿を出て、R117 経由で午前7時ころ帰宅する。

6月に浅間山の翌日にこの山に登るつもりだった。だが、上空に寒気が入って、平地は晴れだが、山は雲が覆っていて雨も降ってきたため、岩櫃山へと変更した。

今年は盛夏が早くにやって来た。7月3日に YHC で唐松山に登ったが、途中断念かとも思うほどに暑さで参ってしまった。そこで、標高の高い所から歩き出せるこの山にリベンジも兼ねて行くことにした。夏リフト終点の標高は 1,900m 程である。出だしは曇りで少しムシムシしたが、徐々に時折雲が切れて、風を受ければ快適であった。しかし、期待した展望は無かった。